

## 令和元年度 研究主題

大和郡山市立矢田南小学校

## 1. 研究主題

「伝え合う力を高め、学び合う子どもの育成」  
～自分の考えをもち、話し合う活動を通して～

## 2. 主題設定の理由

本校では、平成24年度より、「言葉の力を育み、ともに学び合い、高まり合う子どもの育成」を研究主題として掲げ、「きく・話す」ことを中核にして伝え合う力を高めることをめざしてきた。平成27年度より、国語科を基盤としながら生活科・理科、算数科を研究の対象として、論理的な表現力を育てていくことに取り組んだ。また、一昨年度より、新たな研究主題「伝え合う力を高め、学び合う子どもの育成」を掲げ、国語科や理数科のみならず各教科における言語活動（記録・要約・説明・話し合い等）を工夫することに取り組んだ。その結果、話し合い活動においては、ペア→グループ→全体へと段階的に進める中で、話し合い活動を楽しみ、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。そして、事前に自分の考えを書く時間を確保したことにより、考えを整理することができ、自分の考えを言える児童が増え、話すことに対する抵抗が小さくなった。しかし、研究をする教科を広げたことで教師自身が児童に求める姿が曖昧になり、話し合い活動を通し学びをどのように深めることができたのか、どの場面で深まったのか等、教師の視点を明らかにして共通理解する必要を感じた。そこで、昨年度より算数科を中心に言語活動の充実をはかり、話し合い活動を通して「主体的・対話的で深い学び」をめざすことにした。

昨年度の取組の中で、以下のような課題が明らかになった。

## ① 話し合い活動

話し合う機会は増え、進んで取り組もうとする姿は見えた。また、自分の考えと相手の考えを比べることもできるようになってきた。しかし、より良い考えへと練ることができるよう話し合いを深めることは、まだ不十分である。また、自分の考えを説得力のある話し方で伝えることも十分とは言えない。

## ② 授業の展開

算数科は、見通しをもち、考えた結果や過程を表現する際に、式で表現する、図で表現する、操作で表現する、言葉で表現するなどの表現方法を用いながら、筋道を立てて説明する教科である。子どもが解決方法を導き、学び合うためにも、「つかむ→見通す→解決する→まとめる→振り返る」という授業展開が大切である。しかし、授業の展開や板書、発問に関しての全体での研修が不十分であり、それらを系統立てて考えていく必要性を感じた。

## ③ 学習規律

学習規律が守られ児童一人一人が大切にされていると感じられる中でこそ、安心してお互いの思いや考えを伝え合うことができる。しかし、時と場所に応じた話し方や、話し手の意図を意識しながら聞く力が十分とは言えない。また、チャイムの合図を守ることや授業への切り替えなど時間のけじめが身につけていない児童も少なくない。

そこで、これらの課題を克服するために、重視したいこととして以下の3点を挙げる。

① 深まる話し合い活動

深い学びをしている時の児童の姿は、友達の考えの良さを見つけ合い、活用しようとする、新たな見方・考え方ができ、より良いものをつくろうとする、学んだ力を応用し、創造的・発展的な問題を考えようとする、学んだことを自分の生活に生かそうとする姿である。ペアやグループの話し合い活動では、深い学びをめざして、自分と違う考え方を知り、相手意識・目的意識をもちながら対話学習を進めたい。そして、課題を解決するために、比較や分類、関連付け等による多様な考え方を取り入れ、それを発表する場を設けたい。

② 学校全体で取り組む問題解決の授業

算数科の学習では、帰納的に考えて数量の関係を見いだしたり、その関係が成り立つ理由を説明したり、いつでも成り立つかどうかを考えたりすることで一般化して表現することが大切である。普段の授業の中で、解き方の指導だけでなく考え方の道筋も大切に指導していきたい。そして、学習のつながりを大切にして、系統立てて論理的な表現力をつけていきたい。まずは、「つかむ→見通す→解決する→まとめる→振り返る」という授業の展開や板書、発問を学校全体で研修し、系統立てた活動に取り組みたい。

③ 道徳性を養う教育活動

伝え合う活動の基盤となるのは、相手の思いを受けとめながら聞いたり話したりすることができる温かい集団である。互いを認め合い、協力し、助け合おうとする信頼関係や節度ある言動、思いやりの心を育む道徳性を養うため、人権教育、道徳、学級活動を大切にしたい。そして、一人一人の感じ方や考え方の違いを認め合い、ともに学び合える児童を育てていきたい。

子どもの思考力・判断力・表現力向上事業

大和郡山市立矢田南小学校

氏名 \_\_\_\_\_ 担当学年 \_\_\_\_\_

ご自身がアクション・リサーチを行われる場合どのようなゴールを追求されたいですか？

それはどのような理由からですか？

上にあげたゴールを達成するための計画を簡単に結構ですので箇条書きでお書き下さい。

子どもの思考力・判断力・表現力向上事業

大和郡山市立矢田南小学校

氏名 田端 浩夕

ご自身がアクション・リサーチを行われる場合どのようなゴールを追求されたいですか？

誰も取りこぼさない「全員参加」の授業

それはどのような理由からですか？

低学年の児童が目立っているため

上にあげたゴールを達成するための計画を簡単に結構ですので箇条書きでお書き下さい。

- ・ 既習事項の確認と丁寧に行う授業展開
- ・ 新しく学んだことが確実に身につくような、反復的な問い掛け
- ・ 問題の丁寧な解説

子どもの思考力・判断力・表現力向上事業

大和郡山市立矢田南小学校

氏名 清水 建二

ご自身がアクション・リサーチを行われる場合どのようなゴールを追求されたいですか？

自分の考えをもった上で、活動を進む。

それはどのような理由からですか？

一人で、ペアで、班で、全体の場で、なんとなく授業を受けている子どもたちがいる。受け身にならずに、自分から活動にめぐる一歩目を、「自分だけの考えがある」と思うから。

上にあげたゴールを達成するための計画を簡単に結構ですので箇条書きでお書き下さい。

- ・ 1人の時間を長めにとる
- ・ ねあてを達成するための「見通し」をもつ活動。
- ・ 反復による定着。
- ・ 自分の考え、思考の言語化。

## 第 2 学年 算数科学習指導案略案

授業者 田端浩多

## 1, 単元名

かけ算 (1)

## 2, 本時案

## (1) ねらい

- ・ 2 の段の九九の構成をもとにして、5 の段の九九の構成を考えさせる。

## (2) 展開

| 学習活動   | 指導上の留意点   |
|--|---|
| <p>1. 前時の活動を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ はたに、手形をおします。1 つ手形がふえたとき、ゆびの数はどのようにふえていくかをしらべましょう。</p> </div> <p>2. めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ 5 のだんの九九のきまりを見つけ、5 のだんマスターになろう！</p> </div> <p>3. 手形が 4 つの時の指の数を、ブロックを使って調べ、気づいたことを発表する。</p> <p>4. 手形が 5 つの時の指の数を予想し、理由を考える。</p> <p>5. 手形 9 つまでの指の数を予想し、発表する。</p> <p>6. 児童の気づきから、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に、2 の段の九九の構成を考えたことを思い出させる。</li> <li>・ 1 つ手形をおした時は、指の数は 5 本であることをおさえる。</li> <li>・ 2 のだんで見つけたきまりを 5 のだんでも応用できるかどうかを考えさせる。</li> <li>・ 手形を絵で示し、ブロックに置き換えて、指の数を数えさせる。</li> <li>・ 5 とびで数が増えていることを見つけさせる。</li> <li>・ ブロックは 20 個までしかないことを挙げ、どうすればいいのかを考えさせる。</li> <li>・ 式の意味を考えさせる。</li> <li>・ なぜその答えになったのかを子どもたちに発表させる。</li> <li>・ 5 のだんの九九の答えは、5 とびになっていることに気づかせる。</li> <li>・ 次時への期待をもたせるため、他のだんの九九ではきまりがあるのかを問う。</li> </ul> |


### 3. 板書計画






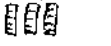

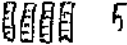
**かだい**

はたに手形をおします。1つの手形がふえたとき、ゆびの数ほどのようにふえていくかをしらべましょう。

めあて

5のたごんの九九のきまりを見つけ、5のたごんマスタ-になろう。



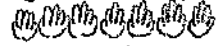


 1つの手形は、ゆび5本

|   |   |                   |
|---|---|-------------------|
|  |  | $5 \times 1 = 5$  |
|  |  | $5 \times 2 = 10$ |
|  |  | $5 \times 3 = 15$ |
|  |  | $5 \times 4 = 20$ |

<気づいたこと>

- ・5とひで数がふえている。

↓

|  |                   |            |
|--|-------------------|------------|
|   | $5 \times 5 = 25$ | 5ふえて<br>いる |
|  | おた) いくらが          |            |
|  | $5 \times 6 = 30$ |            |
|  | $5 \times 7 = 35$ |            |
|  | $5 \times 8 = 40$ |            |
|  | $5 \times 9 = 45$ |            |

まひめ

5のたごんの九九のこたえは、5とひでなっている。

しほかのたごんはどうかた。

### 4. アクション・リサーチの取組

今年度、授業改善を目的としたアクション・リサーチを行っている。1学期は、低学力の児童が目立ったため、それらの児童に焦点を当て、誰も取りこぼさない「全員参加」の授業を目指していた（フェーズ1）。しかし、既習内容を含め、基礎的なことを授業中に何度も確認する等、中程度以上の学力をもつ児童には、退屈だと感じる授業展開になっているのではないかという課題が出てきた。

そこで、2学期は、学級全員がわくわくする「知的チャレンジを伴った授業づくり」を目指していく（フェーズ2）。それを達成するために、具体的には、課題提示の際、児童が思わず「考えたい」と思うような発問を考えたり、学習の積み重ねを意識させたりすることが有効であると考え。それらが効果的であったのかを測るためのアセスメントも用意していく。取組をまとめると、以下のとおりである。

- (1) ミッション形式、ストーリー仕立ての「わくわくする課題」を提示すること
- (2) 友達の発言や既習事項を活用し、課題に対し、見通しをもって知的なチャレンジができるようにすること
- (3) 学習を積み重ねることで、課題に取り組むことができることを実感させること
- (4) 児童の食い付きを測るためのアセスメントを準備すること
- (5) 次時に対して意欲をもてるような声かけを行うこと

# さん数アンケート

2年2組（男・女）

・あてはまる気もちの顔に色をぬって、わけをかきましょう。

①きょうのさん数のじゅぎょうは、わくわくしましたか。



わけ

②きょうのさん数のじゅぎょうは、わかりましたか。



わけ

③きょうのさん数のじゅぎょうでは、チャレンジできましたか。



わけ



## 大和郡山市立矢田南小学校

## 算数科授業記録

1 9月18日(水)5時間目

2 アクション・リサーチ

わくわく感をもって(児童が意欲的に)

取り組むことができる授業展開

3 本時のめあて

5のだんの九九のきまりを見つけ、5のだんマスターになろう

4 授業記録

|    |    |    |    |    |    |    |  |  |
|----|----|----|----|----|----|----|--|--|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |    |  |  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |    |  |  |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |  |  |

| 時刻    | 授業内容及び指導者の動き   | 児童の活動<A・R>  |
|-------|--|---|
| 14:00 | <p>2の段の復習</p> <p>T:「2の段の九九をしました。」</p> <p>昨日手形を押した旗を見せる。</p> <p><b>【かだい】</b></p> <p>旗に手形を押します。1つの手が増えた時、指の数はどのように増えるか調べよう。</p>                                    | <p>Ca:旗に歓喜。</p> <p>&lt;運動会の旗は、児童の意欲をとっても高めている様子。旗を使った学習にわくわくしている様子。&gt;</p> <p>Ca:指示がなくても<b>【かだい】</b>をノートに書き写す。</p> <p>記入している間、C17とC6とC11が課題を読む。その後全員で読む。</p> <p>C17:早く課題を写し終えて、一番に元気よく挙手をする。C6とC11も続く。</p> <p>C11:特に大きな声でゆっくり読むことができた。</p> <p>C8:えんぴつを削っていた。</p>                           |
| 14:06 | <p><b>【めあて】</b></p> <p>5の段の九九の決まりを見つけ、5の段マスターになろう。</p> <p>1つの手に指5本を確認。</p> <p>手形のラミネートを黒板に貼る。</p> <p>T:「手形1つに指何本かブロックで確認しよう。」</p> <p>隣と相談させる。</p> <p>手形2つの場合</p> | <p>Ca:指示なしでノートに記入。</p> <p>C17:「田端先生、手を挙げますか?」</p> <p>Ca:手形に興味をもつ。</p> <p>&lt;手形の教具にわくわくの様子。&gt;</p> <p>C14:ブロック1コ→C13も1コに。黒板を見て5コ。C14は1コのまま。</p> <p>C3,C15:5コになっていない。手遊び?思考中?</p> <p>C10:「5×1です。」</p> <p>C7:「先生、それ書きますか?」</p> <p>C1:手形の形に並べて置く。</p> <p>C7:縦に10コ。</p> <p>C8:横に10コ、色互い違い。</p> |

|       |   |  |
|-------|---|--|
|       |   | <p>C13, C15: 縦5横2。<br/>C14: 横5縦2。<br/>C6: 「5、2、10です。」</p>  |
| 14:20 | <p>手形3つの場合</p> <p>手形4つの場合</p> <p>T: 「ブロックは全部でいくつ持っていますか？」<br/>T: 「ブロック使えませんね？」<br/>T: 「気付くことはありませんか？お隣と相談しましょう。」</p>  | <p>C17: 「<math>5 \times 3</math>。」<br/>Ca: 「15。」<br/>C3, C8: 10コのケースに入れる。<br/>(<math>5 \times 4</math>より、<math>10 \times 2</math>に見える)<br/>C20: 「20！」<br/>C: 「カードある！」<br/>C1とC2: 話し合う。<br/>C7とC8、C13とC14: 話をしていない。<br/>C12: 「5ずつ、とばしてる。」<br/>C13: 「5とび。」</p> |
| 14:25 | <p>【気付いたこと】<br/>5とびで数が増えている。<br/>T: 「<math>5 \times 5</math>はできるやろか？予測してみましょう。」</p>   |  |
| 14:30 | <p>T: 「<math>5 \times 5</math>、何になった？」</p> <p>T: 「どのように増えるか説明できる？」</p> <p>T: 「そのあと、<math>5 \times 6</math>、<math>5 \times 7</math>、<math>5 \times 8</math>、<math>5 \times 9</math>をどんどんやってみよう。」</p> | <p>C14: 全く挙手しない。<br/>C3: (それまで全く挙手しなかったが)<br/>「25です。」<br/>C8: ノートに、式は書かず、25、30、35と答えだけ書く。<br/>C14: 当たるも答えられず。<br/>C3: 「5！」<br/>C12: 「5とびで増えていく。」<br/>Ca: 「5ずつ増えている。」</p>   |
| 14:35 | <p>【まとめ】<br/>5の段の九九の答えは、5とびで増えていく。</p> <p>次時の予告(3の段)<br/>T: 「次の時間は3の段にチャレンジします。」</p>  | <p>Ca: 【まとめ】をノートに写す。<br/>C18: 上手に読む。<br/>C8: 全員読みの時、手遊び。<br/>C17: 早くまとめを写し終えて、一番に元気よく挙手をする。C6とC11も続く。<br/>C11: 特に大きな声でゆっくり読むことができた。<br/>C: 「6時間目？」<br/>C: 「明日？」<br/>C: 「明日の明日？」<br/>&lt;次時への興味は高い様子。&gt;</p>   |
| 14:40 | 振り返り  |  |

## 第2学年 算数科学習指導案略案

授業者 田端浩多

## 1. 単元名

水のかさ

## 2. 本時案

## (1) ねらい

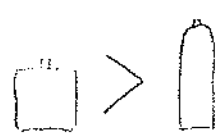
- ・水のかさは、「同じかさのいくつ分」で表せることに気づかせる。

## (2) 展開

| 学習活動   | 指導上の留意点  |
|--|--|
| <p>1. 前時の活動を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・2つの容器に入る水のかさは異なっているはずなのに、形の異なるコップで測るとどちらも3ばいだったことを不思議に思っている動画。</p> </div> <p>2. めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・2つのようきにはいる水のかさは、どちらがどれだけ多いのかを、だれにでもわかるほうほうで、つたえよう。</p> </div> <p>3. どちらがどれだけ多いのかを比べる方法を考える。</p> <p>4. 班で考えを話し合った後、内容をまとめ、全体に発表する。</p> <p>5. 児童の気づきから、まとめをする。</p> <p>6. リクレーションシートを記入し、学習したことを振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画で前時の板書や児童の様子を映し出し、2つの容器に入っている水のかさを、直接比較・間接比較によって測定したことを思い出させ、どちらの容器の方が、水を多く入れられたのかを再確認する。</li> <li>・既習事項を基に、「どれだけ」「だれにでも」を意識して、誰にでも分かるような説明を考えさせる。</li> <li>・違った大きさのもので比べると、同じかさでも数値が変わり、かさの大きさが誰にでもわかるように表せないことに気づかせる。</li> <li>・同じ大きさのもので比べると、「どちらがどれだけ多い」かを表せることに気づかせる。</li> <li>・机間指導では、まとめを導くことのできる児童の考えをピックアップしておく。また、教室にあるプリンカップ等の容器にも目を向けさせる。</li> <li>・グループでの話し合いをした後、ホワイトボード等を使って発表の準備をさせる。</li> <li>・児童の考えから、「水のかさは、同じ入れものをつかってはかると、ちがいをくらべることができる」というまとめを導く。</li> <li>・まとめを行った後、dLの単位を伝え、dLマスを見せることで、次時への見通しをもたせ、意欲をもたせる。</li> </ul> |

### 3. 板書計画

2つのようきに入る水のかけは、  
ふしぎなこと



白いようきの方が多く  
入るはず...

しかし

エッ? はかるとどっちも3ばい  
アップ

かたが  
ちがう

なぜ?

めあて

2つのようきに入る水のかけは、  
どちかがどれだけ多いのかを  
だれにでもわかるほう(ほうで、つたえよう)。

だれでもできる

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 1ばん | 2ばん | 3ばん |
| 4ばん | 5ばん |     |

キーワード

- ・目まじ
- ・みんなは同じ入れたの

まとめ

水のかけは、同じ入れたのでも  
つかってはかると、ちがいをわける  
ことができる。

せいじ申 同じかきの人れいの  
dL (デシリットル)

### 4. アクション・リサーチの取組

今年度、授業改善を目的としたアクション・リサーチを行っている。

1学期は、低学力の児童が目立ったため、それらの児童に焦点を当て、誰も取りこぼさない「全員参加」の授業を目指していた(フェーズ1)。しかし、既習内容を含め、基礎的なことを授業中に何度も確認する等、中程度以上の学力をもつ児童には、退屈だと感じる授業展開になっているという課題が出てきた。

そこで、2学期は、学級全員がわくわくする「知的チャレンジを伴った授業づくり」を目指していく(フェーズ2)。それを達成するために、具体的には、課題提示の際、児童が思わず「考えたい」と思うような発問を考えたり、学習の積み重ねを意識させたりすることが有効であると考え。また、それらが効果的であったのかを測るためのアセスメントも用意していく。取組をまとめると、以下のとおりである。

- (1) ミッション形式、ストーリー仕立ての「わくわくする課題」を提示すること
- (2) 友達の発言や既習事項を活用し、課題に対し、見通しをもって知的なチャレンジができるようにすること
- (3) 学習を積み重ねることで、課題に取り組むことができることを実感させること
- (4) 児童の食い付きを測るためのアセスメントを準備すること
- (5) 次時に対して意欲をもてるような声かけを行うこと

# さん数アンケート

2年 組 ( 男 ・ 女 )

・あてはまる気もちの顔に色をぬって、といにこたえましょう。

①きょうのさん数のじゅぎょうは、わくわくしましたか。



・何をしているときですか。

②きょうのさん数のじゅぎょうで、あたらしいはっ見がありましたか。



・はっ見したこと。

③きょうのさん数のじゅぎょうでは、チャレンジできましたか。



・かんそう